

令和元年飯田市議会第2回定例会一般質問通告表

令和元年6月17,18日

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
1	福 澤 克 憲 (市民パワー) 【 40 分 】	1 交流拠点としての天龍峡エリアの考え方について (1) (仮称)天龍峡大橋、周辺施設の整備状況は ① 飯田国道事務所との連携は ② ガイダンス施設や遊歩道等の整備状況は (2) 飯田市にとって「名勝天龍峡」とは (3) 飯田市としての取り組みは ① 天龍峡を中心とした周遊型の誘客事業の促進とは ア 周遊型とはどのようなものか イ 誘客事業の手法は (4) 地域に望む取り組みは ① 地域への説明、呼びかけは十分か ② 地域や団体等との連携は (5) 今後の取り組みと方向性は 2 幼児教育・保育の無償化の対応について (1) 国の制度の状況は (2) 飯田市の対応は ① 延長保育等への対応は ② 保育士の補充は (3) 飯田市全体の「保育のあり方」についての検討状況は
2	井 坪 隆 (会派みらい) 【 40 分 】	1 三遠南信道の開通を見据えた、遠山郷の観光の在り方について (1) 指定管理としている施設の経営の見通しをどう考えているか (2) 遠山郷への誘客のビジョンをどのように考えているか 2 本市における、いわゆる「高齢者」の定義について (1) 高齢者を「65歳以上」としていることを見直したらどうか

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
3	岡 田 倫 英 (会派のぞみ) 【 50 分 】	<p>1 小中学校の屋外活動における熱中症対策について</p> <p>(1) 小学校の運動会を半日に短縮開催する傾向があるなか、飯田市での状況は</p> <p>(2) 日常の屋外活動について、WBGT(暑さ指数)を把握した健康管理の状況はどうか</p> <p>(3) 熱中症、脳貧血に対する手引き書を整備してはどうか</p> <p>2 リニア・三遠南信時代の二次交通を見据えて</p> <p>(1) 自動運転社会への対応をどう考えていくか</p> <p>① 伊那谷自治体会議での検討状況は</p> <p>② 飯田市で考える意義はあるか</p> <p>③ 研究体制を立ち上げてはどうか</p> <p>(2) JR飯田線の活用について</p> <p>① JR飯田線活性化期成同盟会でどのような検討がされているか</p> <p>② イベント列車による地域への誘客の取り組みは</p> <p>③ リニア開業時の将来像をどのように描くか</p> <p>3 認知症対策について</p> <p>(1) 認知症の人が行方不明、事故になった場合の費用負担はどうか</p> <p>(2) 賠償に備えて自治体が保険で支援する取り組みを検討しているか</p> <p>(3) 認知症診断への支援を考えられないか</p>
4	福 沢 清 (会派みらい) 【 40 分 】	<p>1 リニア時代に中心市街地がこの地域の中心拠点にふさわしい場所となるために</p> <p>(1) 大宮通り桜並木をまちの活性化にどう生かすか</p> <p>① 第3期飯田市中心市街地活性化基本計画と大宮通り桜並木との関連は</p> <p>② 昨年行われた大宮通り桜並木の交通などにかかわる実証実験の結果は</p> <p>③ 観光などのために中央公園プール跡地を駐車場にする考えは</p>

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	福 沢 清 (会派みらい) 【 40 分 】	(2) まちなか観光に関して歴史的街並みを生かすことは ① 地元には仲ノ町から旧測候所までを「春草通り」とする考 えがあるが市の考えは ② 歴史的街並みをまちなか観光コースとしていく考えは (3) 平成27年に飯田市も後援して行った「まちの活性化・都市デ ザイン競技」はまちづくりにどう生かされているか 2 介護をしている方への支援について (1) 介護をしている方への支援はどのようなものがあるか (2) それは有効な支援となっているか (3) 今後の支援はどのように考えるか
5	小 林 真 一 (公明党) 【 40 分 】	1 飯田市における各施設のAEDについて (1) AED設置箇所、設置数は (2) AED設置の経緯は (3) AEDの各施設の管理状況は (4) 自主防災組織へのAED導入補助の考えは (5) AEDの使用状況は ① 各施設での使用状況を把握しているか ② AEDの女性への使用状況は 2 障がい者補助制度の申請方法について (1) 障がい者補助制度申請方法の現状は (2) 障がい者からの申請方法における要望はあるか (3) 障がい者の負担軽減の考えは
6	湊 猛 (会派のぞみ) 【 40 分 】	1 飯田市の観光振興について (1) 南信州観光公社による地域連携DMO登録後、飯田市との連 携は ① 飯田観光協会解散後、協会が担っていた役割をどう引 き継いだか ② 飯田市と南信州観光公社との連携はどうか

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	湊 猛 (会派のぞみ) 【 40 分 】	(2) 中心市街地の魅力づくりとして、美術博物館や人形劇フェスタをどう考えているか (3) 名勝天龍峡の周辺整備及び、(仮称)天龍峡大橋の開通を見据えた活用は (4) 遠山郷における観光戦略の推進は 2 林道・市道整備の進捗状況について (1) 林道千遠線の現状は (2) 市道南信濃142号線の復旧状況は
7	熊谷 泰人 (会派のぞみ) 【 40 分 】	1 「飯田市中学校の運動部活動等のあり方」について (1) 平成26年2月に長野県教育委員会の方針が出されてからの飯田市の現状と取り組みは ① 市内の中学校運動部活動の現状と課題は ア 加入状況は イ 社会体育を含めた活動の状況は ウ 見直しの背景にある課題とは ② これまでの活動基準は ③ スポーツ活動運営委員会の設置状況は (2) 飯田市が目指す部活動の姿とは (3) 新たな活動基準について ① 市内全中学校で統一されるか ② 冬季の活動は ③ 市が目指す部活動の姿を実現できるか (4) 運動部活動の延長で行われている社会体育活動の廃止により、今後、受け皿となる「地域において実施されている社会体育活動」の現状は ① 市内におけるクラブ数や地域バランスはどうか ② 今後、受け皿となり得るか ③ 保護者の負担が増加するのでは ④ 受け皿となる新たなスポーツクラブなどの設置や合同部活動の検討など、教育委員会としてサポートが必要では

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	熊谷 泰人 (会派のぞみ) 【 40 分 】	<p>(5) 新たな活動方針への移行期間である2020年8月末までのスケジュールは</p> <p>2 中心市街地活性化について</p> <p>(1) 第3期中心市街地活性化基本計画の策定状況は</p> <p>(2) 「まちの活性化・都市デザイン競技」の提案は飯田駅周辺整備等に活かされているか</p> <p>(3) 旧ピアゴ飯田駅前店の状況は</p>
8	木下 容子 (市民パワー) 【 40 分 】	<p>1 持続可能な社会づくりのための取り組みについて</p> <p>(1) マイクロプラスチック対策について</p> <p>① 天竜川流域に位置する市として、下流域にきれいな水を渡していくことは重要と考えるがどうか</p> <p>② 長野県から「信州プラスチックスマート運動」が提案されたが、これに沿って取り組む考えは</p> <p>③ 市民や小売店などへの啓発や環境学習がこれまで以上に重要だと考えるがどうか</p> <p>④ 市内での取り組みは</p> <p>(2) 「いいだし『食べきり15・15運動』」について</p> <p>① 市民の間にどの程度浸透しているか</p> <p>② 市民への啓発活動は</p> <p>③ 飲食店への働きかけは</p> <p>(3) 長野県と、持続可能な社会を目指す国際組織「イクレイ日本」とで発表した「長野宣言」について</p> <p>① 「宣言」の内容はどのようなものか</p> <p>② 「宣言」をどう捉えたか</p> <p>③ 「イクレイ」に加盟している飯田市として、「いいだ未来デザイン2028」の中で、今後、持続可能な社会づくりにどのように取り組むか</p>
9	永井 一英 (公明党) 【 40 分 】	<p>1 骨髄バンクへのドナー登録について</p> <p>(1) 飯田市あるいは飯田保健所管内の血液のがんの患者数、造血幹細胞移植数、ドナー登録数は</p>

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	永 井 一 英 (公 明 党) 【 40 分 】	<p>(2) 骨髄バンクでは、ドナーの登録者の確保が大きな課題となっている。市の役割は、ドナー登録者を増やすための普及啓発だが、現在の取り組みは。また、今後の取り組みは</p> <p>(3) 長野県は、今年度から、市町村が助成制度を設けていることを条件に、ドナーとドナーが勤務する事業所に対する補助制度を開始した。市が新たに助成制度を設けてはどうか</p> <p>2 第2期「飯田市版総合戦略」策定に向けて</p> <p>(1) 飯田市版総合戦略と総合計画「いいだ未来デザイン2028」は関連が深いと思うが、どのように考えているか</p> <p>(2) 第2期「飯田市版総合戦略」策定に向け、どのような思い・考え方で、どのように取り組むか</p> <p>3 今後の市政運営・経営について</p> <p>(1) 2014年から開始された「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の計画期間中に著しい進展、あるいは顕著になってきたことで、飯田市政の運営・経営に影響を与えている、あるいは与えそうなことは何か。また、それへの対応は</p>
10	木 下 徳 康 (会 派 の ぞ み) 【 40 分 】	<p>1 地域コミュニティを維持していく方策に関して</p> <p>(1) 世帯について</p> <p>① 世帯の現状は</p> <p>ア 飯田市における人口・世帯数の推移は</p> <p>イ 世帯構成の推移は</p> <p>② ひとり住まい・核家族化の現況と傾向は</p> <p>(2) 多世帯同居・近居住まいについて</p> <p>① 家族が多世帯同居、あるいは近居することの価値は</p> <p>ア 地域コミュニティにとっては</p> <p>イ 子育てにとっては</p> <p>ウ 介護など福祉にとっては</p> <p>② 多世帯同居・近居住まいを推進することについて</p> <p>ア 地域振興住宅の現状は</p> <p>イ 同居・近居新築等への助成は</p>

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	木 下 徳 康 (会派のぞみ) 【 40 分 】	<ul style="list-style-type: none"> ウ 固定資産などの税の軽減、農振除外や農地転用許可制度の規制緩和などは エ 今後、多世帯同居・近居住まいを推進する市の考えは <p>(3) 地域コミュニティにおける、家族・家庭のあり方について、教育からどう考えるか</p> <p>2 洪水対策について</p> <p>(1) 雨水浸透柵、雨水貯留槽の設置の効果について</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 洪水対策上、降雨時の河川への雨水流入にタイムラグを設けることが有効と考えるがどうか ② 造成など開発時の洪水対策の現状はどうか <ul style="list-style-type: none"> ア 大規模開発時はどうか イ 一般住宅はどうか ウ 雨水浸透柵、雨水貯留槽の設置の効果はどう考えるか <p>(2) 雨水浸透柵、雨水貯留槽の設置の推進について</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 現在の推進状況は ② 今後の推進策は ③ 洪水が懸念される地域の上流地域をモデル地区として、補助のあり方、住宅建設時の申し合わせ等の検討は
11	塚 平 一 成 (会派のぞみ) 【 40 分 】	<p>1 安心安全の地域づくりについて</p> <p>(1) 保育園の野外活動の安全確保について</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 安全管理指針は ② ヒヤリハットの事例はどう把握しているか ③ リスクマネジメントは <p>(2) 児童・生徒の通学時の安全確保について</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 様々な事件等を受けて、どう捉えるか ② 地域の安全見守り活動について <ul style="list-style-type: none"> ア 各地区の実情はどうか イ 無理なく長続きする体制づくりをどう考えるか

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	塚 平 一 成 (会派のぞみ) 【 40 分 】	2 市役所の市民対応について (1) 職員の接遇について ① 市民の声をどう受け止めるか ② 状況をどう分析するか (2) 接遇力の向上対策について ① 接遇研修の実態と成果は ② より効果ある取り組みは (3) 「行政は最大のサービス産業」と考えるが、どう認識するか
12	後 藤 莊 一 (日本共産党) 【 40 分 】	1 生活保護受給者の自家用車使用について (1) 飯田市の公共交通の状況を考慮して、所有が可能なら認める考えは 2 防災について (1) 土砂災害防災訓練が行われたが、参加状況や効果は。また課題は (2) 実際の災害時の現状は (3) 避難訓練には限界があると思うがどうか (4) 行政として住居地の土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)を解消する考えは (5) レッドゾーン指定された住居地への支援は 3 降雪及び降霜や降雹による農業被害について (1) 今年4月の降雪による農業被害の状況は、また、4月下旬からの降霜、降雹による農業被害の状況は (2) 過去の被害の時に燃焼材の補填を行なったことがあるが、被害農家に対する今回の市としての支援策は (3) 対象の農家に補助金交付制度や納税猶予、減免等支援策を知らせる考えは
13	新 井 信 一 郎 (会派のぞみ) 【 60 分 】	1 税金について (1) 全国法人会総連合の「平成31年度税制改正に関する提言」について ① 内容は ② 市の対応は

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	新井 信一郎 (会派のぞみ) 【 60 分 】	<p>(2) 租税教育について</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 現在の取り組みの状況は ② 学校独自のカリキュラムにさらにプラスをし、外部の専門家の指導を拡大できないか ③ ころ豊かな教育プラス、「稼ぐことの大切さ」の授業は考えられないか <p>2 リニア新時代に向けた、リニア長野県駅及び、駅周辺の土地利用のあり方について</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 飯田市拠点集約連携型都市構造推進戦略(立地適正化計画)について <ul style="list-style-type: none"> ① 進捗状況は (2) 移住・定住に向けた取り組みについて <ul style="list-style-type: none"> ① リニア長野県駅周辺への考えは (3) リニア駅周辺への企業誘致の考えは (4) リニア関連事業の市民説明について <ul style="list-style-type: none"> ① 歴史的事業にもかかわらず、市民への説明が乏しく、一部での議論ではないかとの声を聞く <ul style="list-style-type: none"> ア 市政懇談会等に参加されない市民への説明は イ 法人への説明は (5) 長野県と綿密な計画のすり合わせについて <ul style="list-style-type: none"> ① 統一地方選後、新県議会議員との連携はとれているか ② 県からリニア駅及び、駅周辺の機能を盛り込んだイメージパースを示していただくことはできないか (6) 土地利用計画に対し、専門家からも苦言があることに対し、今後の計画の見直しは考えられないか <p>3 交通事故や暮らしの中の危険と感ずることへの対応について</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 通学路の安全対策は十分か <ul style="list-style-type: none"> ① まちづくり・地区、個人から寄せられる案件への対応は ② 横断歩道や安全設備の設置は

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	新井 信一郎 (会派のぞみ) 【 60 分 】	<p>(2) インフラ整備について</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 交通事故多発エリアと認識しつつも、交通量などが規定数値に満たないが故、信号機設置の整備が叶わない状況への対応は ② 地域から改良要望が出し続けられている歩道の設置は ③ 過去必要として整備した防火水槽等、時代の流れとともに役目を終えたものの撤去等への考えは ④ 防災ハザードマップにもある「土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)」等、エリア内の今後の対応策は ⑤ 市内を流れる河川内の堆積土等が住民生活を脅かしているが、それらの計画的除去の考えは <p>(3) 高齢者の交通事故について</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 事故の現状は ② 運転免許証自主返納について <ul style="list-style-type: none"> ア 現状は イ 自主返納促進への取組と課題は ③ 高齢者ドライバーに対して <ul style="list-style-type: none"> ア 専門機関で開催される運転講習への積極的参加への補助は考えられないか イ 緊急自動ブレーキやアクセル踏み間違い抑制機能など搭載車種への乗り換え促進補助は考えられないか <p>(4) 「松本走り」や歩行者のマナー違反を含め、飯田市独自の交通事故撲滅運動は考えられないか</p> <p>4 ランドスケープデザインから見る農業について</p> <p>(1) 農ある風景を活かしたまちづくりへの取組について</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 農業の持つ役割を発揮するための支援は ② 担い手不足への対応は ③ 人材育成のための取り組みは <p>(2) 伝統野菜について</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 現状は ② 支援状況は ③ 今後の対応は

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
14	古 川 仁 (日本共産党) 【 40 分 】	<p>1 子どもと高齢者の交通安全対策について</p> <p>(1) 飯田市における交通事故について</p> <p>① 子どもに関する実態は</p> <p>② 高齢者に関する実態は</p> <p>(2) 「飯田市通学路安全対策アクションプログラム」に関して</p> <p>① 飯田市における通学路安全対策の取り組みは</p> <p>② 飯田市通学路安全検討委員会の構成は</p> <p>③ アクションプログラムの平成30年度の活動は</p> <p>④ アクションプログラムにおける取り組みの内、地域との協働による安全確保の活動実態は</p> <p>⑤ グリーンベルト、ゾーン30とは</p> <p>⑥ ゾーン30の周知徹底は</p> <p>⑦ ゾーン30の設置箇所を増やす考えは</p> <p>(3) 高齢者の交通事故防止に関して</p> <p>① 歩行中の事故防止対策は</p> <p>② 運転中の事故防止対策は</p> <p>③ 運転免許証自主返納の実態は</p> <p>④ 飯田市として高齢者ドライバーに対するサポート体制は</p> <p>2 「平成30年度市民の意識に関する基礎世論調査」に関して</p> <p>(1) 基礎世論調査のあり方について</p> <p>① 基礎世論調査を実施する目的は</p> <p>② 事項別調査対象の選択の考えは</p> <p>③ 定型的な質問に加え市民の声が把握できるよう記述式も加える考えは</p> <p>(2) 問27「子どもを産みやすい環境」に関して</p> <p>① 調査結果をどうとらえているか</p> <p>② 特に、30代の数値をどう評価するか</p>

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	古 川 仁 (日本共産党) 【 40 分 】	3 子育て支援策について (1) 医療費の窓口完全無料化に関して ① 子育て支援策の一つとして、子ども医療費の窓口完全無料化を考えてはどうか
15	山 崎 昌 伸 (会派のぞみ) 【 40 分 】	1 元号改元について (1) 元号改元に伴う市民生活への影響は (2) 和暦と西暦の併記についての議論は進んだか 2 移住定住促進について (1) 飯田市における移住定住の現状は ① 移住定住者数の推移と、飯田市への移住定住に至った主たる理由は何か ② 宝島社発行「田舎暮らしの本」による「住みたい田舎ベストランキング」の結果分析は (2) 「田舎へ還ろう戦略」の成果をあげるために、どのように取り組む考えか ① 20地区の「田舎へ還ろう戦略」に対する支援の現状と、今後の課題は ② 20地区の「田舎へ還ろう戦略」を実効性あるものにするために「飯田市20地区応援隊」のあり方を見直すことも必要と考えるがどうか (3) 今後の取り組みは ① 移住定住促進係の役割は ② 移住定住を促進するためには、特に力を入れる分野が必要と考えるがどうか
16	吉 川 秋 利 (会派のぞみ) 【 40 分 】	1 学力の向上について (1) 小中連携・一貫教育について ① 小中連携・一貫教育が平成23年からスタートして9年目を迎えることになる。最初の4年を探索期、次の4年を深耕期、9年後を充実期と位置付ける具体的な意味は ② 小中連携・一貫教育のカリキュラムはどのように作成、実践、修正がされたか ③ 小中「一貫」ではなく小中「連携・一貫」としたのどのような意味を持つのか

No.	氏 名	項 目 ・ 要 旨
	吉 川 秋 利 (会派のぞみ) 【 40 分 】	(2) ICT教育について <ul style="list-style-type: none"> ① 国として2020年に大きな学習指導要領の変更が予定されていると聞かすが、どのような内容で、準備状況はどうなっているか ② ICT教育の進捗状況は 2 コミュニティスクールについて <ul style="list-style-type: none"> (1) コミュニティスクールを展開していくことについて <ul style="list-style-type: none"> ① 学校運営協議会の機能はどう定義されているか ② 地域や家庭と学校との連携はどうなっているか ③ 地域へどのように浸透を図っていくか
17	木 下 克 志 (会派のぞみ) 【 40 分 】	1 地産地消について <ul style="list-style-type: none"> (1) 飯田市特産の水引の普及について <ul style="list-style-type: none"> ① 式典時のリボンに水引リボンを使用しては 2 地域コミュニティについて <ul style="list-style-type: none"> (1) 地域自治が抱えている諸課題にどう向き合うか <ul style="list-style-type: none"> ① 組合未加入問題をどう考えるか ② 役員のみ手不足をどう考えるか ③ 地域自治組織導入後の検証、フォローをどう行ったか ④ 市政懇談会の目的は達成できているか ⑤ 問題が山積する中で、新時代の地域経営の仕組みづくりをどう考えるか